

UEG (united european gastroenterology) week 2018 に参加して

内科統括診療部長（消化器内科） 内視鏡・超音波センター長 田中 良憲

2018年10月
in ウィーン

2018年10月20日から24日までウィーンで開催されたUEG week(欧州消化器病週間)に参加しました。演題は「Does ABO blood type influence long term outcomes of pancreatic cancer?(ABO血液型は膵癌の長期予後に影響するのかわ)」であり、ポスターセッションでの発表を行いました。

この研究は現在社会人大学院生として、愛媛大学第三内科(消化器・内分泌・代謝内科)で行っているもので、いまだ予後が悪い膵癌に対する臨床研究です。

ABO血液型が癌の罹患率や長期予後に影響を及ぼすという報告は以前よりありましたが、「影響がある」とするものから、「影響ない」というものまで色々な報告が散見されます。近年、膵癌においても同様の報告がされています。

これを受けて、今回は愛媛県におけるABO血液型が膵癌の長期予後に及ぼす影響について解析したデータを発表しま

した。愛媛県下の第三内科関連病院の先生方にご協力いただいている「Ehime Pancreato-Cholangiology (EPOCH) study Group(愛媛胆膵疾患研究グループ)」の集計です。2011年から2013年に診断された膵癌のうち、血液型を測定した計409の症例を検討した結果、O型は膵癌の予後が良好な傾向があったという内容です。

今回は私自身初めてのヨーロッパであり、パスポートを取るところから始めなければならず非常に不安でした。ただ、以前当院で勤務されていた先生と一緒にいくことができたため心強かったです。

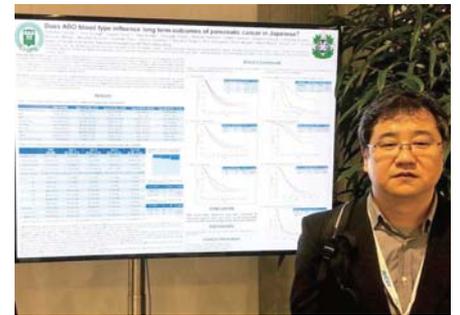
ウィーンは日本よりも少し寒い季節で毎日曇りでした。最高気温が10度の日もあり、手袋が必要な日もありました。ホテルから学会会場までは地下鉄を2回乗り継ぐ必要がありましたが、何日か往復していると、これにも慣れ、最終日前日には

一人で散策する余裕もできました。食事也比较的においしく、値段も安かったため、学会以外でも楽しむことができました。

学会には日本からの発表も多くみられ、私の隣も日本からのポスターでした。

初めての海外学会は非常に有意義なものになりました。このような経験をさせていただき、ありがとうございました。

今回の発表を許可いただいた山本院長、不在の間ご迷惑をおかけした消化器内科の先生方に感謝いたします。



ヨーロッパIVR学会 (CIRSE 2018) に参加して

放射線科 岩野 祥子

2018年9月
in リスボン



学会に参加した平田放射線科部長(左)と筆者

この度、2018年9月22日から25日までポルトガルの首都リスボンで開催されたCIRSE(Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe)に参加しました。これはIVR(画像下治療)に関連する国際学会で、日本を含む各国からの参加者は約7,000名と、この分野で世界最大規模です。今年のポスター発表の優秀演題受賞者は複数の日本人が占めており、同じ日本人として誇らしく感じました。

今回は2演題採択され、1題目は腸間

膜単独損傷に関する考察です。腹部外傷において腸間膜単独損傷は非常に稀であり、初期診断に難渋するだけでなく、治療方針の決定が予後を左右します。

そのため、シートベルト外傷後の腹痛など本症が疑われる場合には、積極的な検査により早期診断を行うこと、また各診療科が連携して手術あるいは低侵襲なIVR治療の適応を判断することが必要です。迅速かつ適切なIVR治療は救命だけでなく手術回避の可能性もあり、自験例でも量や濃度、注入速度を調整したn-butyl cyanoacrylate(NBCA)という塞栓物質を用いて、合併症なく救命と手術回避を達成しています。

2題目は経皮的ドレナージ手技についてです。急性膵炎後のwalled-off necrosis(WON)等では、多量の壊死物質のため、一般的な方法ではドレナージに難渋することがあります。今回、シースとマレコット型ドレナージチューブの併用という新たな工夫で、効率良いドレナージが可能ということが分かり、会場ではこれに対する高評価のコメントもいただきました。

私が国際学会に参加するのは今回が初めてで、その規模に終始圧倒されました。特に機器展示では、日本でまだ採用されていない最新機器について貴重な情報収集ができました。

この貴重な学会参加を許可してくださった山本院長をはじめ、不在期間にお世話になりました各先生方、スタッフの皆さんに大変感謝しております。日々の診療において少しでも還元できるよう努めてまいります。

当院では2016年よりIVR科が発足しています。各診療科の患者さんや先生方のために積極的に活動を広げられるよう努力しております。お困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。

